

# あかあまん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

通信販売  
いたします

## 地図の専門店

- 地形図、空中写真、海図、地質図の販売
- 特注地図、地図データベースの製作販売

国土交通省国土地理院特定販売店  
株式会社 **アルプス** 出版社

名古屋市中央区東桜二丁目21-11 (CBC筋向)  
電話 (052) 931-1005 (代) FAX (052) 932-1312  
<http://www.alpspublishing.co.jp/>

企画・制作：株式会社 新聞ビル

# 元氣のでてくることばたち

136

## 村上信夫

(アナウンサー)



久郷ボンナレットさんは、1964年、東京オリピックの年に、カンボジアのプノンペンで生まれた。日本に来てちょうど30年になる。ボル・ポト政権下の壮絶な体験を語りながら、地球の平和を願って講演活動をしたり、カンボジアの伝統文化を伝える活動をしている。

後に、四つ葉の意味は、「希望」「信仰」「愛情」「幸福」と知る。30年のあいだにそのすべてを、手にすることができた。「希望」を持って来日、「信仰」を持って亡くなった家族に想いを馳せ、「愛情」を今の家族に注ぎ、「幸福」でいられる。「難民少女、小学校卒業の新聞記事を見て、一人の日本人男性から手紙が届いた。「僕は、隣の座間市に住む18歳の久郷と申します…」

した。長男、長女に恵まれた。

### 赦すことば

99年、難民を助ける会に呼ばれ、体験をスピーチした。人前で体験を語るのは、初めてのことだった。これをきっかけに心の奥にしまっていたことがあふれ出した。ミレニアムというタイミングもきつかけになった。体験を本にしたいという願いが実を結んだ。01年、処女作『色のない空が刊行される。

決意の剃髪もした。カンボジアでは、近親者の葬儀で、剃髪する習慣があるが、女性が剃るのは珍しい。頭を剃ってくれたのも、加害者の立場だった年老いた女性だった。指先のぬくもりが伝わり、「この人たちも同じ人間だと初めて実感した。母親が論してくれた。憎まない。仕返ししない」という言葉が蘇った。赦す気持ちが湧いてきた。赦すということは、水に流すことではない。真正面から真実に向き合ってこそ赦せる。過去には、たくさん教訓がある。

## 憎まない。仕返ししない

久郷ボンナレットさん

### 忘れられない1975年

ボンナレットは、「美しく輝く子ども」という意味だそう。その名には、父と母の願いが込められている。10歳までは、両親の愛情をたっぷり受けて育った。父は、国立図書館の館長をしていた。温厚で、責任感が強い人だった。若い頃、映画俳優にスカウトされたほどの2枚目だ。彼女は、「父のような人と結婚したかった」という。母は女学校の先生をしていた。「叱られた記憶がない。いつも笑顔だった。だが、その父も母もこの世の人ではない。それぞれ44歳と43歳で亡くなった。

1975年のボル・ポト派によるクーデターの数日後、数百万人のプノンペンの市民全員が立ち退きを命じられた。途中、父は連行された。次姉は栄養失調で病死した。長兄は行方不明になった。母もどこかに連れ去られ、10人家族のうち、6人を失った。行き着いた農村では、ろくに食事も与えられ

きるだけで精いっぱい。あつという間だった」

「壮絶極まりない体験は、このような短い文章では伝えきれない。いや、それを伝えることが目的ではない。今回は、その後の生き方を伝えたい。

生き残った兄弟は、全員日本に在住している。姉のセタリンさん(55)は、町田市でカンボジア料理店を営んでいる。トー兄さん(50)は本厚木、トラ兄さん(48)は綾瀬にいます。みんな両親の亡くなった年齢を超えた。

### 四つ葉のクローバーの教え

来日して、姉の家に身を寄せて、ボンナレットさんは、海老名小学校4年3組の児童になった。このとき16歳、6歳年下の仲間たちと勉強した。親友になった、まさみちゃんが大切なことを教えてくれた。一緒に四つ葉のクローバーを探し、「四つ葉を見つけた人には、幸運が訪れるんだ」と教えてもらった。



俳画/イネ・セイミ

という書き出しだった。辛抱強く、温かく支え続けてくれた。彼も、4歳で父を亡くし寂しい子ども時代を送っていた。「海水浴に行くとき私との肌のバランスを取るため、前日に日焼けしに行き、軽いやけどをしたそうだ。」「デートに2時間遅れても待つてくれた」。やさしくて、いじらしいところほだされ、88年、長い間文通を続けていた久郷正彦さんと結婚しようとした。05年秋、当時13歳の娘と一緒にカンボジアに向かい慰霊の儀式を行った。二度と足を踏み入れないと誓った村を30年ぶりに訪れた。首都プノンペンの北130キロの農村。7000人が虐殺されたとされる場所だ。村へ続く門をくぐると、無数の死者が出迎えているように見えた。涙があふれた。隣の長女が手をさすってくれた。たまたま掘り出された骨を、肉親として火葬した。犠牲になったすべての人への祈りを込めた。重労働を強い元ボル・ポト派の農民も慰霊の儀式に加わってくれた。

好評発売中

### イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

### 俳画教室開講中

とき 常滑屋  
月一回 第二・第三金曜日  
午後一時〜三時  
会費 一回二二五〇円(三ヶ月分前納制)  
問合せ ☎〇五六九(三五)〇四七〇

大人でも上達する！  
おとなのフルート教室  
入会受付中!!

何か始めたいと思っている貴女。数年後、素直にフルートを奏でる姿がそこにあります。楽しく個人レッスン致します。

講師 イネ・セイミ  
(フルート奏者 指導歴30年)  
1レッスン・時間5,000円(テキスト代別)  
申込み 0569-89-7127  
お問合せ scimline@oasis.ocn.ne.jp



愛知県立大学名誉教授

# 山田正敏

## 『バリ島行ったり来たり』(26)



《伝統的な

バリ島の村に住む》⑬

——鬱病をも癒した、

田舎の生活環境⑧——

《ゴトン・ロヨンで、出来あがった池で、喜びも、安らぎも、ぎびしい自然の摂理も知る》

出に行く、所管の警察署の裏池に群生する水中植物。あつかましくも、私が所望して頂戴してきたものであ。警官も気易く池に入り、五〜六株ビニールの袋に入れてくれた。

も達に揃ってくるようにたのもうと思っていたのに……。それはそれとして、あの管理人の喜びようと、池の管理への意欲には、圧倒される思

この翡翠は、どうやらこの森と谷川の水辺を棲息地にしている小鳥のようである。

この鳥はよく飛来し、枝に時々とまっているという。目敏い管理人の娘や妻が、そつと身振と小声で教えてくれるが、私は、素早いこの鳥の姿をじっくり眺めたことは、未だに一度もない。

この驚の棲は、西隣の部落の竹藪であることは、管理人の案内で私はずで知っていた。その竹藪は白鷺の白い糞で、惨憺たるものであった。わが家の“人工の自然である池”も、いつの間にか“天然の自然に馴染み、私達に、地域の自然界の様子を教え

◆

私の思いつきで、庭の一隅に池を掘ってもらって、はや十余年。この池も歳月を経て、当初の願い通り、水蓮も増殖し、花を咲かせている。魚も大小さまざま。当初買い求めた緋鯉や真鯉、子ども達が近くの谷川や農水路で捕ってきた川魚たちが泳ぎまわっている。水蓮の葉陰にも、数え切れないほどたむろしている。メダカほどの誕生したばかりの小魚もいる。多分、水蓮や浮草のフサフサした根に、生み付けられた成魚の卵から孵化した、純正のこの池の魚一世“たちだろ”。



しかし、私は本当の翡翠という「寶石」も、見たことも触ったこともない。実物の鳥を見ながら、その「実像」は見えず、飛び立つ羽根の動きで、実像は淡く掻き消されるばかり……。欲求不満はつのるばかり……。 「知りたいこと」を「わからないまま」放置できない性分なのか、それとも過去の職業病の名残なのか……。私の場合、その両方であろう。時折「こだわり過ぎ」と家人になじられることもあるが、他人に迷惑をかけるに限り、こだわり続けている。

この二〜三年、「カワセミ」の飛来の話は聞かないし、尋ねたこともない。

その代わり、この池に、白鷺が魚を捕りに来る——と、管理人が迷惑そうに妻に語ったという。そういえば、もう随分以前から、早朝に群をなして、家の前の中空を

この水蓮や浮草は、バリの家を訪れるたびに、滞在届けと手数料を提

人車を止めて、金魚屋の池で、十センチほどの緋鯉と真鯉五〜六匹を、他の魚には目もくれずに掬い上げ、私に同意を求める仕種。よほど欲しかったのだろう。さらに途中下車して、魚の餌も入手する。私は池の魚は、近くの水路や小川で子ど

いだった。それからというものの、管理人は早朝から池の辺りに佇んで、池を眺め、水量を調節し、餌をまいている。時には村人も覗きに來ている。子どもも、大人たちも——。

「翡翠」を調べてみると——。カワセミの雄を「翡」、雌を「翠」

東に飛行し、夕方に飛来する姿は、日々目にして来た。その鷺の何匹かが、わが家の池に降り、魚を啄んで行く——と、管理人が困惑顔で話しに來たというのである。

翡翠は、素早く魚を捕食するが、どうやら鷺は、長い足で、池に居座り、大小多量の魚を捕り、簡単には立ち去らないらしい。



連載絵本『ユウちゃんのふしぎな国』第三回

# ユウちゃんのふしぎな国

高橋 幸子・作  
大島 沙織・絵



そのとき、今まで男の子だったコン太が、とつぜんキツネにかわってしまいました。

「ユウちゃん、びっくりしただろう。実はボク、ほんとうはキツネなんだ。人間となかよくなりたくて、人間に化けていたんだ。ゴメン。」

動物が大すきなユウ子には、コン太がキツネだったとしても、少しもかまいません。

「わたし、コンちゃん、大すきよ。」

「さあ、運動会がはじまるよ。」

二人は手をつないで学校へ行きました。

今日は待ちに待った運動会で、みんなワイワイと楽しそです。

ユウ子は少しがっかりです。勉強はよくできるのですが、かけっこは苦手です。いつもビリでした。



⑥

「ユウちゃん、ボクたちのグループでいっしょに走ろうよ。」

コン太はユウ子の手をとって走りだしました。

「コンちゃん、わたしおそいのよ。」

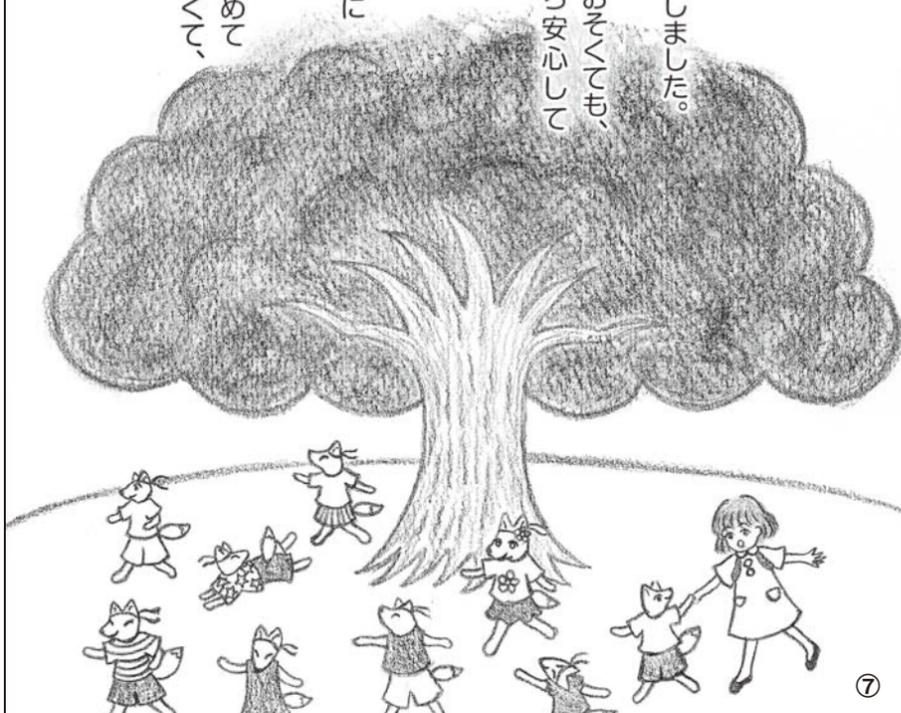
「だいじょうぶ。ボクたちの運動会は、おそくてもはやくても関係ないんだよ。だから安心して走ればいいんだよ。」

ヨーイ、ドン。

一生けんめい走っていると、しぜん体がはすんでくるようでした。

走って、走って、走りました。

こんなに楽しく走れたことは、はじめてでした。でもキツネたちにはかなわなくて、またビリになってしまいました。



⑦

やがて、表しよつ式のアナウンスが聞こえました。

「一等しよつは人間の国のユウちゃんです。」

「えっ、わたしはビリだったのに。」

ユウ子がびっくりしていると、コン太がニコニコと言いました。

「ユウでは、楽しくがんばった子が一等なんだ。」

「ユウちゃん、おめでとう。」

「がんばったね。」

「ユウちゃん、おめでとう。」

みんなが口々に言いました。ユウ子にしよつじょうがわたされると、花火のような大きなはく手が起りました。



⑧

知多の動植物雑記(二五七)

原 穰

二月に入れば、暦の上では三日が節分、四日は立春ながら、現実はまだ寒い。草地を歩いて、らしき花は、真冬でも日当りのよいところなら、ポツポツ程度ながら咲いているのはセイヨウタンポポ位のもの。でも、私が毎年、冬の最中



ソシンロウバイ

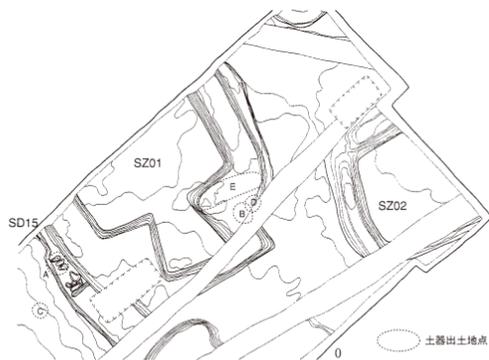
このように、庭木として植えられており、切花としても、その価値は十分。この辺りでは、ロウバイとソシンロウバイの両方咲いているのに対して、淡褐色に色づいた花びらの基部が、ロウバイは淡褐色に色づいているのに対して、ロウバイは淡褐色に色づいていない。ロウバイは、その区別は、咲いた花をのぞき込めば一目瞭然。ロウバイは花びらの基部が淡褐色に色づいているのに対して、ロウバイは淡褐色に色づいていない。

町の考古学

古墳時代(百四十八) 奥川 弘成

遺跡

古墳時代は、古墳の名のとおり、墳墓の成り立ちによって弥生時代と区別されています。弥生時代を代表する墳墓は、方形周溝墓です。およそ一〇四方の区画の周りに溝を掘り、土盛りをした四角の丘を造っています。丘の上面は平坦であったようであり、ここに穴を掘り死者を埋葬していたと考えられています。この穴は複数あることから、特定の個人の墓でなく家族墓であったと考えられます。



廻間遺跡の前方後方形墳丘墓(愛知県史より)

また、周りの溝からは、高坏や重などが出土しています。それは、死者を弔う儀式を執り行なった際の道具だと考えられます。方形周溝墓は、大ききや形に違いはあるものの、集落にほど近い場所に墓場を造っていることから、埋

まじりました。ここ50年ほどの間に火葬が推し進められたことで埋め墓は納骨場となり、骨壺を納める石塔の墓石が立ち並ぶ景色に変わりました。死者を棺に納め、埋葬し

ていた頃は、家ごとに細長い砂の土盛りがあつて遺体を埋めた場所を示すかのようになり、ソフトボールほどの石が並び置かれていました。それは、方形周溝墓に見られる溝は、特定の区画の中に家族を埋葬し、一族もしくは、ムラの人が同等に共有した墓場を設ける共通点があります。

集団墓地とは一線を画した、方形周溝墓にまつりごとを行なう場所を付けた加えた前方後方形の墳丘墓が弥生時代終末に現れました。この墓は、後

集団墓地とは一線を画した、方形周溝墓にまつりごとを行なう場所を付けた加えた前方後方形の墳丘墓が弥生時代終末に現れました。この墓は、後

ちよつとおじやまします

伝統工芸士 岩橋眞悟さん



「岩橋3兄弟は有名だよ」といわれ、個展会場へ訪ねてみた。そこに現れたのは、人の良さそうなおじさんだった。ちよつと、10数年ぶりの個展の最中であつた。思うように売れないねえ」と、ボヤいていたが



赫容

岩橋さんの作品には、全国に熱狂的なファンがいると聞く。岩橋さんは全国的に開く作家として知られている。旅は岩橋さんの仕事のエネルギーでもあるようだ。旅先での巡り合いが楽しく、時間を忘れて、美術館に出掛ける。おいしいものに出会い、食べる。その土地でしか味わえない美意識・心意気が、日本中のどこにもあるという。岩橋さんは結晶釉の窯焚きのものを得意とする。窯を開けてみると、出来栄がわからないスリルを味わい、充実した気分が仕事をしていくようだ。淡いピンクの結晶

づかいを聴いてみたら、作品の持つ魅力がより伝わってくると思う。おしゃべりが苦手の岩橋さん。私のおしゃべりに、岩橋さんの居場所を譲り渡そうと営業・接客担当の母親が気遣うのだが、どうも岩橋さんのテンポの悪さ、リズム感のなさ、母親からのダメ出しが出てしまふ。お母様ももう少し辛抱してあげると、岩橋さんの心も少しばかり軽くなるのかなあ、この親子には、このスタイルがベストなんだろうなあ。黙つて、作品を見ていくれば、いい」と、岩橋さんの背中がそう言っているように思えた。(赤井 伸衣)

若竹俳壇

作品募集 毎月10日までに葉書で

- 城山の松蒼蒼と初景色 風や身の丈小さくなるばかり 七度の干支を迎へて年明るく 新札に折目を付けてお年玉 飛び出したみくじ大吉初詣 ぼんと割り平日もどる寒卵 冬晴に旅立つ翼夢のせて 日ざしのか蜜ラウメもがしむわたり 走る児を追いかけ風が舞い上がる 新札を孫に用意のお年玉 初詣押されて上る車椅子 初正月歳はどつてもうれしいな 初詣四時起きでゆき人出なし 寒卵こつんと朝のしじま割る 欲しいもの福か服かと福袋 元日や昨日と違う妻の顔 子の作る丸も四角も雑煮餅 満月や見る人もなく大晦日 浴ぶ鳥と飲む猫のあり寒の水 寒梅茶寿の煙の生きた鹿 湯上りの咽を潤す寒の水 床の間の鏡餅より蹴る 冬の間の鏡餅より蹴る 湯上りの咽を潤す寒の水 寒梅茶寿の煙の生きた鹿 湯上りの咽を潤す寒の水 床の間の鏡餅より蹴る

【訂正】 平成22年1月1日号のちよつと「おじやまします」に誤りがございました。誠に申し訳なく、訂正させていただきます。ご迷惑をおかけしたことを深くお詫言申し上げます。誠に申し訳なく、訂正させていただきます。ご迷惑をおかけしたことを深くお詫言申し上げます。誠に申し訳なく、訂正させていただきます。ご迷惑をおかけしたことを深くお詫言申し上げます。

